

## 自分の考えを整理・深化させる活動の工夫

英語を「書くこと」の指導において、課題の把握から英文の完成までの過程で、次のような生徒はいませんか？

- ・課題に対する考えが浮かばずに先に進めない
- ・浮かんだ様々な考えを整理せず表現しようとする中で、伝えたいことが曖昧になる
- ・考えを英文で記述する際に、英語表現や構成に悩む

このような生徒が、様々な視点から課題について考え、自分の力で英文を書き上げることを目指す授業実践を行いました。

**課題の把握** 日本に初めて住む外国人に、災害に備えて伝えるべきことは何？それはなぜ？

何を伝えたらよいだろう…

**ポイント!** 課題を捉えるための様々な視点の獲得

- 視点①：現状の把握
- 視点②：現状に至った経緯
- 視点③：現状に対する取組
- 視点④：理解を深める新たな知識
- 視点⑤：対極の立場

日本人と在留外国人で、災害時の「困り感」に違いはあるのかな？【視点④】

防災バッグなら、どんな災害にも対応できて便利！【視点③】

地震に関する知識の差【視点①】

伝えた方がよいことがたくさんあるな。何を伝えたらよいだろう？

**ポイント!** アウトライン作成（初稿記述前）による考えの整理

Local shelters are important!  
Safe and Useful.

**初稿**

よりよく伝えるためには、何を改善するとよいか？どうやって推敲していこうかな？

**ポイント!** 学習方法の自己決定と推敲

この表現で伝わるか先生に相談したい。友達と初稿を読み合って参考にしたい。もう少し自分で調べたり考えたりしたい。モデル文と比較して表現を取り入れたい。

**第2稿（英文の完成）**

### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

まずは課題に対する自分の考えをもたせてみます。教師や生徒同士の対話、教科書の内容を基に、五つの視点のいずれか、またはいくつかを踏まえて考えを巡らせることにより、生徒は新たな視点から課題を捉え直し、自らの考えを深めることができます。初稿をさらによりよい英文にするために必要な情報や支援を生徒自身に考えさせ、推敲場面の学習を自己調整させることは、生徒が自分の力で英文を書き上げるために有効な手立てと考えられます。